

「大竹のぼる政治活動並びに後援会ご報告」

大竹のぼる



大竹のぼる後援会は龍ヶ崎市議会議員として大竹昇の政治活動を後援しています。大竹昇の政務取り組みを支援し一区切りの年になりました。この間、後援会は市民目線で、大竹昇の政治活動を展開する支援組織として取り組みを行ってまいりました。

後援会のあるべきカタチ

本来後援会は、議員として後援するに当たり、どのような立場にあるべきなのでしょう。私たちは、この4年間を通じて政策的、政治的なテーマを掲げ市民の皆様との意見交換場としてフォーラムを5回にわたり開催してまいりました。

このような活動を通じ、議員の職責、市民の皆様のご負託に応える研鑽の場として、新しい後援会活動の形として取り組んでいます。

基本になる、都市構造を描きました

そして、今、政府は新しい法律によって地方の時代を推進させ、且つ少子高齢化に向かつての対策対応も含めた最終目的に向かいつつあります。一方、議員活動を通じて大竹のぼるは多くの体験を通じ、龍ヶ崎市の将来発展に問題となる状況をつぶさに検分し、未来の龍ヶ崎市の夢構造を画くに至りました。

議会基本条例を制定しました

大竹議員と志を同じくする議員諸氏と共に、龍ヶ崎市議会基本条例を制定し、議員の本来的政策提案能力の重要な機能も、お示しする機会を得ました。

大竹昇が市民の皆様のご負託に応えるために後援会は今後一層の活動を展開してまいります。

今後ともに、フォーラム等の活動を通じて、市民の皆様との直接的な交流を通じ、龍ヶ崎市の更なる発展、少子高齢化社会の諸問題解決に向かつて活動を進めてまいります。市民の皆様には叱咤激励、政策議論を通じて市勢発展のためにご意見やご協力の程、お願い申し上げます。

大竹のぼる後援会は本来あるべきカタチの後援会を目指しています。

それは、間接的ですが、議員を通じて市政に物を申す機会として大竹議員を通じて市民参加のカタチをとる事を目指しています。是非、ご入会を頂き、**市政に求めるご意見を活発にご発言ください。多くの市民や政策研究の皆様とも懇談を定期的に開催しています。**



大竹のぼる後援会 会長 田村 純男
〒301-0018 龍ヶ崎市米町 8829-2
TEL 0297-62-9372

上記の QR コードから

大竹のぼる 公式ホームページ スマートフォンで大竹 HP へ
<http://www.ryu-otake.jp>

大竹のぼる
〒301-0837 龍ヶ崎市根町 781-2
TEL 0297-62-8383

後援会主催のフォーラムを以下のテーマで5回開催いたしました

第1回 財政危機をどう乗り越えよう？

議員定数の法定上限の撤廃と議会の活性化の関係について

第2回 自治基本条例は我々の手で

第3回 「これからの公共のあり方」を考えよう

——公共施設の3分の1が廃止になっていいのか

第4回 「自治基本条例」を市民の手でつくろう

第5回 「少子高齢化」を考える

少子高齢化がどれくらい身近な問題なのか考える機会にしたい

例えば、「少子高齢化」テーマで大竹のぼるは、少子高齢化問題の本質的な解決や現実的な困りごとの対応を地道に解決する手法に取組み、概念的ないかにもそれらしく見えるもの言いより、実際的な政策を標榜していくことに取り組んでいます。

現実的に申し上げますと、介護施設の問題も実際は民間の進出の可能性の問題で、行政が主体的、主導的に解決できる問題ではありませんし、制度を補足支援することが限界です。本来、一番力を入れるべきは、要介護や、要支援等、制度条件に当てはまる以前の状況の方々にどう対応するかの問題が重要なのではと認識しています。

突然起きる家族の介護や困りごとに今すぐ対処

高齢化にかかわらず、一定の年齢にあれば、ある日突然、ご夫婦のどちらかが、介護であれ、生活上のお手伝いであれ、必要になってしまうのが現実なのです。突然それが発生し、日常の情報で知っている、理解しているはずの制度などの情報が混乱にみまわれる故、適切に対応できない場合が多いのです。地域包括支援センターや社会福祉協議会というような生活支援や指導、相談機関を活用する余裕すらなくなってしまいうのも現実なのです。新しい「相談サポート制度」が望まれます。

身近な高齢者支援政策・制度が介護施設の充実と並行して必須になります

そうした現実に適切に役立つプログラムや、そうならないための政策が本当の意味で高齢化の中で必要なのではと思います。

介護も同様で、制度に適合する以前に必要な支援の多様さを認識し、高齢にあっても穏やかに暮らし、元気に健康を維持できる生活環境や健康のために働く施設や就業環境の整備が大切なのです。地域別「健康生活インストラクター制度」

就労と介護の難しい両立をどのように支援するかが政策の柱

そうした考え方に立って、社会環境の整備やしかりとした産業環境を誘導支援

する政策が急務になっています。単純に高齢者対策として介護施設を誘致するなどの認識だけでは、目の前にある現実の高齢者の皆様の生活を支援したり、健康的な生活環境を保持することは出来ません。介護施設の増加を期待する事よりも、今すぐ必要なのは、もっと身近にある親切や、身近なご近所のコミュニティーなのであって、小さな支援政策に重点をおくべきなのではと思っています。

身近な難民環境の解消が急務 民間と連携する政策・制度

買い物一つを取ってみても、足腰が丈夫でなければ100m先のスーパーマーケットやコンビニすらも行けません。空き家が増えれば、用心も悪く、何かあっても助けも出来ず、助けられることもままなりません。防災を考えれば、なおのこと、施設の入居に至らない高齢者は自分自身で何かを考えざるを得ない現実があります。身近で、「生活・なんでもお助け隊NPO支援」、新しい基準の「乗り合い生活支援タクシー」すべては民間企業との連携が大切です。

北竜台NTに新しい資産価値をもたらす、多目的企業誕生を促進

民間企業がビジネスベースで立地し、その立地企業の労働力として家族の介護をしながらも、就業できる社会環境や企業環境が地方創生ではこれからの主流になっていくと想定され、龍ヶ崎市でも、このようなビジネスモデルの成立があると確信しています。近県において、このようなビジネスモデルが稼働し始めており、佐貫駅から市内に至るグリーンゾーンは多目的企業の立地により、北竜台NTの新しい創生地帯に変貌することになります。そして龍ヶ崎市には同じ立地条件にある地域が数箇所以上存在しています。佐貫・北竜台NTそして市内中心部に至る田園地帯と流通経済大学に近い、農地環境と、その周辺地区の高齢化環境がそのビジネスモデルにフィットしていることから、政策的な検討を早急に始めるべきと思っています。

福島県白河市や茨城県にも新しい動きが始まっています。最新の企業モデルを、龍ヶ崎市にも成立させる取組みを考えたいと思っています。

夢から現実に向かう実際的なモデルが稼働しているのです。

健康が高齢者の大切な基本 健康のために何をするか

高齢化社会は今、現実の問題なのですから、今出来ること、今から取り組まなければ、効果が無いこともあります。まずは健康で、毎日の生活に開放感と緊張感、やるべき何かを見つけることも大切です。働くことに意味があります。働くことが健康や日々の元気に結びつきます。「新規の企業進出など働く場所作りを推進」

スマートに働き、スマートに憩うライフスタイルが健康の源です。

皆様からのご意見をお待ちしております。